

# PATENT Attorney

パテント・アトニー

春

VOL. 49

日本弁理士会広報誌

2008

●「PATENT ATTORNEY」は「弁理士」のことです。



◎ヒット商品はこうして生まれた  
Suica対応コインロッカー「ART」

●特許調査よもやま話 ●ジャーナリストこぼれ話  
●弁理士風土記(熊本) ●シリーズ特産品(大阪欄間)  
●知的財産権なんでもQ&A ●漫画「なすびくんのお仕事」  
●特許庁からのお知らせ ●JPAA Information

## 知的財産権なんでもQ&A

**Q** 先日ある発明の特許出願したのですが、出願審査請求をしなければ審査されないと言われました。出願審査請求には高額な費用がかかるようですが、特許されるかどうか分からないのに、高額な費用をかけてまで出願審査請求をすべきかどうか迷っています。何かいい判断材料はありませんか？

**A** 出願審査請求の手数料は、平成16年4月1日以降の出願については「168,600円＋(請求項の数×4,000円)」がかかります。おっしゃる通り、安くはない費用です。また、高額な費用を払って審査したにもかかわらず特許にならなかったら踏んだり蹴ったりです。特許の審査は、主に、出願発明が、先行技術と比較して①新しいものか(新規性)、②容易に考えつかないものか(進歩性)という観点から行われますので、出願審査請求をする前に先行技術を調査して、出願発明が新規性、進歩性を備えているか検討しておくことをお勧めします。その調査結果によって、出願発明が特許される可能性をある程度予測できますので、これを出願審査請求すべきか否かの判断材料とすることができます。この先行技術調査は出願発明の技術分野に詳しい弁理士に依頼することをお勧めしますが、特許庁が行う「中小企業等特許先行技術支援事業」を利用すれば費用をかけずに調査することもできます。ただし、新規性、進歩性の判断は非常に難しいので、この場合にも調査結果を弁理士に相談した上で出願審査請求の可否を判断することをお勧めします。

●東京都／中小企業経営者(52歳)

◎このコーナーでは知的財産権に関する皆さまの質問にお答えします。質問事項を記載して、下記の住所にハガキまたはFAX.03-3581-9188で日本弁理士会広報誌「Q&A係」までお送りください。尚、掲載させていただいた方に記念品を進呈いたします。



## 特許庁からのお知らせ

### 発明の日フェスタ開催のお知らせ

4月18日は「発明の日」です。特許庁では、グランドプリンスホテル赤坂にて「発明の日フェスタ」を開催します。入場料は無料(事前登録)です。詳細については、「発明の日WEBサイト」をご覧ください。  
(<http://www.hatsumei-no-hi.jp>)

◎発明の日記念シンポジウム  
日時 4月18日(金) 14時～17時(五色の間)  
内容 基調講演 上月景正氏(株コナミ代表取締役社長)  
パネルディスカッション

◎意匠制度120周年記念イベント  
日時 4月18日(金) 17時～20時(新緑)  
内容 タカラトミー「i-SOBOT」、三洋電機「eneloop」のデザイン開発を聞く  
展示 暮らしを守る意匠権展示ほか

◎発明の日記念展示(特許庁1階ロビー)  
日程 4月7日(月)～25日(金)  
展示 パネル展示とデザインの変遷

JAPANESE PATENT ATTORNEYS ASSOCIATION  
**JPAA 日本弁理士会**  
<http://www.jpaa.or.jp>

## 日本弁理士会ホームページリニューアルのお知らせ

平成20年2月15日付けで日本弁理士会のホームページを全面リニューアルしました。サイト構成及びデザイン、メニュー名称等を一新し、特に弁理士を利用される方々にとって必要とする情報を探しやすいように変更しました。リニューアル作業中はホームページを一時閉鎖しておりました関係で、利用者の皆様にはご迷惑をお掛けしました。今後とも日本弁理士会のホームページをよろしくお願い致します。



# シリーズ「大阪欄間」

商標登録 第5004521号 (地域団体商標)



欄間は奈良時代から寺社建築への採光を目的に作られたものと考えられており、後に彫刻等の技巧を凝らした華麗なものが貴族階級の住居にも使われるようになりました。はじめは、お寺や特権階級の屋敷に限られていましたが、その後、江戸時代になると商家を中心とした一般住宅の茶の間、客間等の鴨居の上に採光通風を良くするという実用性と品格を保つ為の室内装飾として取り付けられるようになりました。

欄間は、もともとは京都が主な産地でしたが、17世紀初期に大阪に伝播し、大阪府下の聖神社や四天王寺等にその伝統技法の発祥が見られ、発展してきました。

経済産業大臣指定の伝統工芸品でもある大阪欄間には、屋久杉等の木目を活かし、近江八景等を立体的に彫り出した彫刻欄間、桐の肌と透かし模様が調和した透かし彫欄間のほか、箴欄間、組子欄間等の種類があり、採光通風の機能に加え、日本家屋にふさわしい落ち着いた美しさも兼ね備えています。

このコーナーに掲載御希望の方は、「特産品」のプロフィール・連絡先をFAX:03-3519-2706までお送り下さい。

熊本城

10年ほど前に東京からUターンし、故郷の熊本で弁理士事務所を開業しております。途中訳あって税理士資格も取得し、現在では特許会計事務所という一風変わった看板を掲げております。

熊本は、世界一のカルデラである阿蘇山で有名ですが、そこで育まれる伏流水も隠れたお国自慢のひとつです。この水のおかげで農畜産物がとても美味しいのはもとより、市内の水道も100%地下水源で賄われ、蛇口を捻れば天然のミネラルウォーターをゴクゴク飲むこともできます。このほか熊本城などの名所旧跡や野趣溢れる温泉にも恵まれるなど、従前より観光と農業を経済基盤としていた熊本県ですが、昨今では、自動車産業や半導体産業なども数多く進出し、次第に工業都市へと変貌しつつあり、県内企業の知財に対する取り組みも着実に進歩しています。

東京在住の頃は、満員電車の通勤が結構な運動となっていたのですが、地方住まいは車ばかりで、意外と運動不足になりがちです。そんなわけで、美味しい地元の食材を目の前に、メタボリック対策に妙案を見出せないのが専らの悩みです。



# シリーズ 23 弁理士 国土記 (熊本)

岩下特許会計事務所  
弁理士・税理士 岩下 卓司



阿蘇山

駅などに設置されているコインロッカーを、電子錠を利用した集中制御型に進化させたのが、株式会社アルファのA I T (アルファインテリジェントターミナルロッカー) である。現金でも利用できるが、最大のポイントは電子マネーE d y・S u i c a・P A S M O・P i T a P aなどI Cカード型乗車券が決済だけでなく、鍵としても機能することだ。

同社は1964年、日本で初めてコインロッカーを製造販売した。以来、メーターや表示部分は改良されたが、ロッカー一つにコインを入れ、付属の鍵で開閉する仕組みは変わっていない。他方では、マンション向けの宅配ボックスで、電子錠により操作部分を一カ所に集約するシステムを構築していた。

I Cカードが普及し、電子マネー化の方向が見え始めた2003年、宅配ボックスで得たノウハウでコインロッカーを一新する取り組みが始まった。不特定多数の利用者を対象とする製品だけに、いかにわかりやすく簡便な操作性を持たせるかに、一番苦心したという。

試作機ができた2003年12月、S u i c aとの連携の提案をさせて頂いた。J R各駅にはコインロッカーが設置されており、新しいロッカーの普及にはS u i c a対応が効果的との判断があった。2005年2月、S u i c aの電子マネー化を大々的にアピールした上野駅で、S u i c a対応型A I Tもデビューを果たした。同時に複数の利用者が来た場合にどうなるか、使い方がすぐに理解されるか気がかりで、運用開始から1週間ほど、同社設計部次長の吉沢猛さんは上野駅でA I Tにつきまわったそう。

ヒット商品は、こうして生まれた!

# ヒット商品を支えた 知的財産権 VOL. 49

## Suica対応コインロッカー「AIT」

商標登録 第4971442号  
意匠登録 第1219066号

ほか



設置された自動販売機などよりも高く、ロッカー稼働率も約80%とのデータが出て、強い手応えを得たという。その結果、同年6月に東京、品川、池袋各駅に相次いでA I Tが導入される運びとなった。

新しさをアピールし、また洗練された雰囲気でも利用率を高める目的でも、A I Tではデザイン性が重視されている。全体、部分の意匠登録に加え、操作部分の液晶表示を業界で初めて意匠登録をしている。「独自のアイディアを守るために知財は重要です。特にロッカーはエンドユーザーに直接アピールでき、企画から製造まで一環してコントロールできる製品なので、商標、意匠を大切にしています」と経営企画部法規課主管の黒澤達哉さんは語る。

関西などのI Cカード型乗車券に対応する機種も順次投入し、A I Tは全国で設置台数を伸ばしている。

## 特許調査もやま話

特許出願をしてからどれくらいの期間で特許になるのでしょうか、と顧客に質問されることがあります。それは、状況によってさまざまです。昨年(2007年)に登録になった特許(登録日が2007年のもの。原稿執筆時に検索できたものは合計で158,462件あります)を例にとって調べてみます。出願日が最も遅いものは2007年10月10日です(特願2007-264360)。この特許出願は出願日から登録日(2007年11月22日)までに2ヶ月もかかっていません。早期審査制度を活用しているもので審査が早いものですが、さすがにこれだけ早いものは珍しいと思います。一方、出願日が最も遅いものは1990年5月16日です(特願平2-508759)。この特許出願は出願日から登録日(2007年8月3日)までに約17年かかっています。特許権の存続期間は延長登録がない限り出願から20年ですから、あと3年しか残っていません。この特許出願は、出願日から7年の期限のぎりぎりを出願審査請求をして(現在は審査請求期限は出願日から3年です)、かつ、拒絶査定不服審判を経ているために遅くなっていますが、これだけ遅いのもまた珍しいものです。(弁理士 鈴木利之)

## 花咲く頃



花の咲く頃という、春を思い浮かべてしまう。もちろん、花は春だけに咲くわけでは無いし、気候や種類によって様々だ。

人で言う「花の咲く頃」とはいつなのか。生物学的に言えば、生殖可能な時期だろうし、人生の充実度を考えれば、一概にこれという時期は限定できないだろう。

少子高齢化で、日本における全人口に占める、労働力人口(就業者と完全失業者の和)は減少傾向を見せている。大学でも、学生の確保は難しくなっているという。企業は人材確保のため、就職活動の開始時期を繰り上げ、学生が本分である学業に専念できないとも聞く。就職担当の大学教員は「今の子供達はとても優しい。傷つけないから、意志よりも周囲の期待を優先させている。不真面目な訳ではない」と心配していた。

仕事柄、著名な研究者に話を聞くことも多いが、充実していると思われる彼らも「若いうちに、興味をもった事に夢中で取り組む事は必要」と、学生の不自由さを感じているようだ。花には、自由な環境が何より必要なのかもしれない。(鈴木)